

AIを用いた実証授業の進捗報告：『課題解決思考』

～AIが出した答えの"その先"へ 学生を導くための実践と課題～

AIスキルの「速さ」と、思考の「深さ」のジレンマ

AI基礎の成果と課題

技術習得スピードは想定以上に加速

一方で「出力が出たらOK」という思考に留まり、学習深度が浅い傾向

課題解決思考の役割と苦勞

役割: AIの答えを鵜呑みにせず、本質を考える力を養う

苦勞: 業務未経験の学生に、フロー図やAs-Is/To-be等の抽象的な思考法を教える難しさ

抽象的な学びを「実践」へ：校内業務改善プロジェクトの始動

テーマ：再試験受験申請事務の効率化

手法：教員へのヒアリングを通じ、現状（As-Is）の課題を学生自らが発見し、理想（To-Be）の業務フローを提案する

現状：全3チームが担当教員へのヒアリングを進行中



プロジェクトを通じた学生の変化と成長

Before

授業当初

「何のために学ぶのか？」抽象的な思考法に戸惑い

目的意識が薄く、受け身の学習姿勢

After

現在

当事者意識を持ち、主体的に教員から課題を引き出そうと試行錯誤

問題解決に向けて積極的に取り組む姿勢

身につけたこと：「本物の課題」に触れ、思考の型を「使う意味」を体感

STEP 1：思考の「型」の習得と、身近な課題解決への応用

学んだ思考の「型」

- ▶ As-Is/To-be分析（現状と理想のギャップを明確化）
- ▶ フロー図による可視化（業務や行動の流れを図で表現）
- ▶ ドラッカーの5つの問い（相手の視点で価値を考える）

身近な課題での実践演習

【学生の取り組みテーマ例】

- ▶ 「通学時の満員電車のストレスをどう解消するか」
- ▶ 「昼休みの学食の混雑を緩和するアイデア」
- ▶ 「授業時間割を改善し、放課後を有効活用する提案」

まとめ

学んだ「型」を使い、
AIを思考パートナーとしながら、
日常の「違和感」を
課題解決のテーマに設定する
個人演習を実施。

STEP 2：個別スキル強化を経て、チームでの「実業務」改善へ

個別フィードバックとスキル強化ドリル

【目的】

- ▶ 最初の演習で見えた個人の課題を克服

【ドリル例】

- ▶ AIとの「対話力」強化
- ▶ 思考プロセスの完全な出力
- ▶ AIの回答の「自分ごと化」

現在の取り組み：実業務改善プロジェクト

【テーマ】

- ▶ 「再試験受験申請事務の効率化」

【現在の活動内容】

- ▶ チームで担当教員へヒアリング
- ▶ 現状（As-Is）の業務フローを作成中

まとめ

個人のスキルアップを経て、現在はチームで協力し、学内の「リアルな課題」の解決に挑戦中。

浮き彫りになった新たな課題と、皆様へのご相談

課題と論点

課題: 「AIで答えが出せる知識」ではなく、「AIを使いこなす思考力・実践力」をどう評価するか？

論点: 「評価ハック」を防ぎ、学生の真のパフォーマンスを測るためには、どのような評価指標や手法が考えられるか

ご相談

? 医療現場の皆様は、新入職員のどのようなパフォーマンスを重視されますか？

ご清聴ありがとうございました



ご清聴ありがとうございました

皆様からのご意見を、今後の実証授業・実習の評価設計に活かして参ります。